

# 指導資料

# 国語 第146号

鹿児島県総合教育センター  
平成31年4月発行

対象 中学校 義務教育学校  
校種 特別支援学校

## 身に付けた資質・能力を実感させる中学校国語科学習における単元構想

国語科学習に必要な感や有用性を感じていない生徒は少なくない。そのような生徒に対して、国語科を学習するよさや身に付けた資質・能力を実感させる単元構想の在り方について提案する。

### 1 国語科学習で育成を目指す資質・能力

新中学校学習指導要領（平成29年3月告示）（以下、「新学習指導要領」という。）で国語科の目標は次のように示された。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

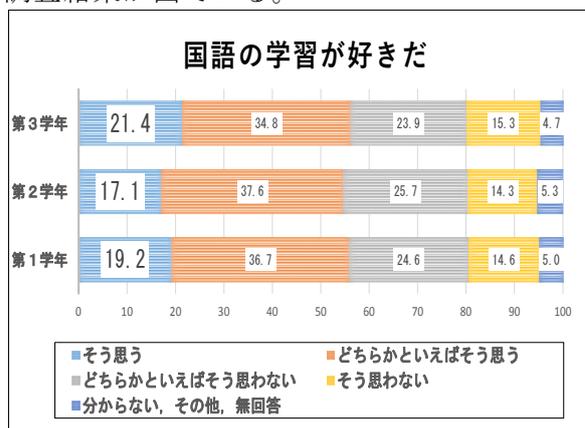
- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

育成を目指す資質・能力の明確化を図るため、他教科等同様、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理された。ただし、資質・能力を育成するために、言語活動を通して授業改善を図っていくことはこれまでと変わりはない。

### 2 国語科学習における生徒の意識

平成25年度に国立教育政策研究所教育課程研究センターが実施した『中学校学習指導要領実施状況調査』によると、「国語科の学習

が好きだ」という問いに対して、次のような調査結果が出ている。



学年により違いはあるが、「そう思う」と回答した生徒は2割前後にとどまっている状況であることが分かる。

生徒がこのような意識をもつ大きな要因として、学習の目的のたせ方が考えられる。生徒は、母語である日本語を使って生活している。日常の生活場面で、言葉の理解や表現について困った経験がなく、あるいは困っているという自覚をもてていないことが予想される。このような状況の中で、日々行われる国語科学習は生徒にとって必要感の薄い学習になっていると言える。また、日常使っている言語を扱う教科として、他教科等ほど学びの成就感や達成感を味わえないことも考えられる。「できなかった計算ができるようになった

た。」とか「跳べなかった跳び箱が跳べるようになった。」などのように他教科等で感じることのできる学びの喜びを国語科学習では十分に味わわせていない現状が推察される。

### 3 中学校国語科における授業実践の現状

現行中学校学習指導要領（平成20年3月告示）においても、国語科では内容の指導に当たっては言語活動を通して指導することが求められている。このため、実際に指導に当たる各学校の教師もこのことを意識するようになり、学習指導要領に示された言語活動例を取り入れた授業が従前よりはるかに多く展開されるようになってきた。しかし、表1のように言語活動を単元の終末段階で発展的に取り入れるケースが散見され、言語活動を通して指導事項を定着させるという本来の目的が十分に達成されているとは言い難い状況も見られる。

表1 言語活動を発展的に取り入れる単元例

	主な学習活動
第1次	教材との出会い 学習の見通し
第2次	教材を通した学習 (段落ごと、場面ごと)
第3次	言語活動の実施 学習のまとめ 振り返り

生徒の意識を鑑みれば、表2のように第1次（スタート）で言語活動を設定し、第3次（ゴール）で実施する言語活動を明確にしておくべきである。そうすることで、生徒はゴールで実施する言語活動を意識して、教材を通して学習していくことになる。

このように、目的に応じて教材を読み、言語活動を通して指導事項の定着を図るということを意識し、授業実践を行っている教師も相当数いる。しかし、言語活動を単元のスタート時に設定しただけでは、生徒にとって国語科学習の必要感を十分高めることにはならな

い。生徒自らが身に付けた資質・能力を実感できる単元づくりをする必要がある。

表2 スタートで言語活動を設定した単元例

	主な学習活動
第1次	教材との出会い 言語活動の設定 学習の見通し
第2次	教材を通した学習 (課題ごとに、個別に)
第3次	言語活動の実施 学習のまとめ 振り返り

### 4 身に付けた資質・能力を実感させる単元構想

(1) 鹿児島大学教育学部附属小学校の実践  
国語科で育成する資質・能力は見えにくく、身に付けたことを自覚しにくい傾向にあるが、鹿児島大学教育学部附属小学校（以下、「附属小学校」という。）の単元の学習過程は、図のように単元のスタート時にゴールの言語活動を試行させることにより児童が身に付けた資質・能力が見えるようにする工夫がなされている。

スタート時の試行（試しの朗読）により、児童は現段階で身に付けている資質・能力を自覚できるとともに、これからの学習で、どのような資質・能力を身に付ければよいか明確に捉えることができる。そして、ゴール時の試行の見直し（好きな場面の朗読）により、試行（試しの朗読）と比較することで単元の学習を通して身に付けた資質・能力を強く自覚することができる。

附属小学校の単元の学習過程を参考にして、国語科学習の単元づくりに生かすことは、中学校の国語科学習の必要感や有用性を生徒に実感させる上で有効と考える。

そこで、次に述べる「身に付けた資質・能力を実感させる単元構想の提案」については、この附属小学校の単元の学習過程も参考にし提案する。

過程	主な学習活動等
つかむ・みとおす	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>教材の出会い・試し作り・課題解決の見通し</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>朗読モデルを聞いた感想の交流</li> <li>○ <b>試行（試しの朗読）</b> <b>スタート</b></li> <li>単元の学習課題の設定</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">         自分の思いが伝わる朗読をするには、どのように読めばよいのだろうか。       </div>
しらべる・ふかめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>限定された場面での試行錯誤</b>（教材文での学習）           <ul style="list-style-type: none"> <li>宮沢賢治の生き方・考え方の把握</li> <li>「賢治はどのような生き方・考えをしていたのだろうか。」</li> <li>『やまなし』の読み取り</li> <li>「五月の谷川は、かにたちにとってどのような世界なのだろうか。」</li> <li>「十二月の谷川は、かにたちにとってどのような世界なのだろうか。」</li> <li>「五月と十二月は、どんな共通点や相違点があるのだろうか。」</li> </ul> </li> <li>○ <b>広い場面での試行錯誤</b>（他の作品での学習）           <ul style="list-style-type: none"> <li>賢治の生き方・考え方と『やまなし』との関係付け</li> <li>「なぜ、『やまなし』という題名を付けたのだろうか。」</li> </ul> </li> </ul>
ふりかえる・いかす	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>試行の見直し（好きな場面の朗読）</b> <b>ゴール</b></li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">         作者の生き方・考え方や表現の工夫から物語が描かれた世界を自分なりに捉える。       </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>活用場面の想起</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>朗読発表会と相互評価</li> <li>単元の振り返り（自己評価）</li> </ul> </li> </ul>

図 鹿児島大学教育学部附属小学校の単元例  
平成30年度の公開研究会学習指導案を基に作成  
(教材：小学校6年「やまなし」)

## (2) 身に付けた資質・能力を実感させる単元構想の提案

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進していくこと、また、「深い学び」の鍵となる「言葉による見方・考え方」を働かせる言語活動を仕組むこととされている。そして、これらのことと同様に、学びの主体である生徒の意識を十分に考慮することが肝要であると考える。生徒が国語科を学習するよさや国語科を学ぶ必要感、有用性を感じられるようにするためには身に付けた資質・能力を実感できるようにする工夫が必要である。そこで、表3のような単元構想を提案する。現在、多くは表2のような単元構想で授業は進められていると考える。そのような単元構想であっても、教師の働き掛けや工夫により、生徒は身に付けた資質・能力を実感し、国語科を学習するよさを経験するかもしれない。もし、

生徒にこのようなことを実感させきれていないと感じるならば、教師と生徒に意識のずれが生じているということである。このような課題の解消を図るためにも、表3のように単元を構想する。ゴールの活動をスタートで行うことにより、生徒は疑問や課題、失敗を通して自らの身に付けている資質・能力を自覚し、本学習で育成を目指す資質・能力を明確に意識するようになる。また、本学習で育成を目指す資質・能力を身に付けるために、目的をもって教材と向き合うようになる。さらに、ゴールの活動を行うことにより、スタートで失敗した活動ができるようになり、自らの資質・能力の獲得を強く自覚し、国語科を学習するよさを実感する。最終的には、身に付けた資質・能力が他の学習場面や日常生活で生きて働くように活用場面まで考えさせると同時に、そのような場を設定することが重要である。

表3 身に付けた資質・能力を実感させる単元構想

	主な学習活動
第1次	<p><b>ゴールの言語活動をスタートに</b></p> <p>疑問や課題、失敗</p> <p>身に付けている資質・能力の明確化（自己認識）</p> <p>学習意欲の喚起</p> <p><b>疑問や課題、失敗が学ぶ目的に</b></p> <p>課題解決への見通し</p> <p>ゴールの確認</p> <p>育成を目指す資質・能力の理解</p>
第2次	<p><b>育成を目指す資質・能力の獲得へ</b></p> <p>教材を通じた学習</p> <p>教材を使って試行錯誤</p> <p>身に付けた資質・能力の確認（自己認識）</p> <p>ゴールへの意欲</p>
第3次	<p><b>ゴールの言語活動の実施による振り返り</b></p> <p>成長の実感</p> <p>スタート時との比較による身に付けた資質・能力の実感</p> <p><b>身に付けた資質・能力の活用へ</b></p> <p>活用場面の想起</p>

(3) 単元構想の例(第3学年 読むこと 俳句を題材としたもの)

- ア 単元名 秀逸を選句しよう～表現に着目して評価する～
- イ 指導事項 文章の構成や論理の展開, 表現の仕方について評価すること。(C読むこと(1)ウ)
- ウ 言語活動 詩歌や小説などを読み, 批評したり, 考えたことなどを伝え合ったりする活動  
(C読むこと(2)イ)

過程	主な学習活動	時間	生徒の意識及び指導・支援の留意点
第1次	<p><b>ゴールの言語活動をスタートに</b></p> <p>1 複数の俳句を示し, 最も優れている俳句を選び, その理由を書く。</p> <p><b>疑問や課題, 失敗が学ぶ目的に</b></p> <p>2 単元の学習計画を立て, 課題解決への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元のゴールを理解し, 単元を通じて身に付けるべき資質・能力を明確にする。</li> </ul> <p><b>単元のゴール</b></p> <p>複数の俳句から秀逸を選句する。</p> <p><b>身に付けるべき資質・能力</b></p> <p>表現の仕方に着目して, どのような効果があるか判断し, その意味などについて考える力</p>	1	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 俳句の解釈の仕方が分からないなあ。</li> <li>・ 一応, 選んだけど特に理由はないぞ。</li> <li>・ 選句のポイントって何だろう。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この俳句って, どんな場面を詠んだのかな。どんな気持ちで詠んだのかな。</li> <li>・ みんなはどの俳句を選んだのかな。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スタートの活動の記録は各自残しておく。(選んだ俳句, その理由など)</li> <li>・ スタートの活動を成功させるためには, どのような資質・能力を身に付けないといけないか考えさせる。</li> </ul>  <p>どうすれば, 俳句を解釈し, 評価することができるのだろうか。選句の着眼点は何だろうか。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「分かるようになりたい。」「できるようになりたい。」という生徒の意識を大切にすること。</li> </ul>
第2次	<p><b>育成を目指す資質・能力の獲得へ</b></p> <p>3 教科書に掲載されている俳句を使って, 俳句の解釈や鑑賞, 批評の仕方について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選句するためには, 表現に着目して解釈せざるを得ないことに気付かせる。</li> </ul> <p><b>解釈や鑑賞のポイント</b></p> <p><b>表現を手がかりにまずは解釈</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節, 月, 時間, 天候, 対象(形, 大きさ, 色, 音…), 作者の状況(性別, 年齢, 時代…)など</li> </ul> <p><b>解釈を基に鑑賞, そして評価, 批評へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情景や心情の想像</li> <li>・ 感動の中心の特定</li> <li>・ 言葉の吟味(なぜその言葉を使ったか。なぜそのような使い方をしたか。)</li> <li>・ 優れている点を評価</li> </ul>	2	
第3次	<p><b>ゴールの言語活動の実施による振り返り</b></p> <p>4 スタートの言語活動として行った秀逸の俳句の選句を行う。</p> <p>5 自分と友達を選句を比較し, 選句のポイントの共通点や相違点などを語り合う。</p> <p><b>身に付けた資質・能力の活用へ</b></p> <p>6 単元で身に付けた資質・能力を活用する場面を想起する。</p>	1	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下の句の言葉の使い方がいいな。この言葉を使うことで一気に場面が一枚の写真のように頭に浮かんだもの。この俳句が秀逸だね。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スタート時に残しておいた活動の記録と比較することで, 身に付けた資質・能力を自覚させる。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最初は感覚で俳句を評価していたけれど, 言葉に着目して, 表現の特徴について, 評価することが大切だと分かった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現に着目して, 評価することが大切である場面を想起させると同時にそのような場をつくることを心掛ける。</li> </ul>

5 まとめ

生徒が国語科の学習を好きでいてほしいと思うのは教師としては当然の思いである。本稿では, その方策として, 身に付けた資質・能力を実感させるための単元構想を提案した。「まずは最初にさせてみる。」という意識で授業改善を進めてほしい。言葉による見方・考え方を働かせて課題を解決する経験を重ね, 身に付けた資質・能力を実感することで, 生徒は国語科の学習を好きになると確信する。

—引用・参考文献—

- 文部科学省『中学校学習指導要領解説国語編』平成20年9月
  - 文部科学省『中学校学習指導要領解説国語編』平成29年7月
  - 鹿児島大学教育学部附属小学校『個の確立を目指す授業の創造』平成25年度～平成30年度
  - 杉本直美 「鹿児島県中学校国語教育研究大会における講演資料」平成30年11月
- (企画課 松永 英一)